

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100923		
法人名	社会医療法人 明和会 医療福祉センター		
事業所名	グループホームさくらはうす・つばきはうす		
所在地	鳥取県鳥取市覚寺180番地		
自己評価作成日	平成26年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人鳥取社会福祉評価機構		
所在地	鳥取県鳥取市良田39番地		
訪問調査日	平成26年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内に閉じこもらないよう利用者の希望や体力等を考慮し積極的に外出支援を行っている。 ・法人内のグループホーム間でのクラブ活動を実施しておりグループホーム間の利用者交流の機会や楽しみの機会が多く持てている ・利用者個々の立場に立ち意向や趣味を活かした活動を提供しながらより良い生活を送り、笑顔を多く引き出すような支援に努めている。 ・生活のあらゆる面で利用者に関っていただきながら、残存能力の維持、向上に努めている。 ・残存機能の維持に心がけるなかで介護度が良い状態でキープでき入居年数が長い方も多く顔なじみで家庭的な雰囲気がある。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>病院施設の別棟二階に位置するグループホームである。2ユニットで常勤17名、非常勤1名という手厚い介護が出来る職員体制を取っており、法人と一体となって各種の研修体制も整っている。入居後10年以上の利用者が要介護3を保っており、又入居後7年以上の利用者が要介護4から要支援2に迄改善したという方もおり、入居者のほとんどは認知症の進行が見られない状況であり管理者、職員が一体となって利用者それぞれに最も適した介護を行なっている事が伺われる。ご家族アンケートでもほとんどのご家族が職員のケアに満足しており、利用者を尊重しご家族ともコミュニケーションを図った運営を行なっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有しケアに実践できるよう、掲示の他にも、会議や日常業務の中で話す機会を持っている。地域の方とも相互に交流できるよう、つながりを大切に、閉ざされた施設ではなく、利用者が地域の中で生き活きと過ごせ、安心や生きる喜び、自信の持てる暮らしの支援が継続していけるよう努力している	広報紙やおたよりに運営理念を表記しており、地域との交流を図りながら利用者を主体にして自宅での生活の延長ができるように支援して理念に基づいた運営をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園との定期交流会や地域の行事に参加させて頂いたり、小学校のマラソン大会の応援を沿道で行い、声をかけあったり、地域の民生委員の方がかき餅作りに訪れて下さるなど交流を持っている。公民館祭には日常の作品を展示させてもらったり、散歩中やスーパーなどで声をかけてもらい話をすることもある。	地域との交流は以前から積極的に行なっており、施設行事や地域行事に参加する事によりなじみの関係を作り子供とのふれあいも多く行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へグループホーム新聞を配布しグループホームケア、認知症への理解や支援を発信している。運営推進会議では高齢者支援について講演や、認知症の理解や対応などを積極的に伝えし、地域住民や民生委員、自治会などの方達と意見交換が行えている。介護実習生の受入れも人材育成にも取り組んでいる。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの取り組みや現状を報告しながら意見交換を行っている。勉強会や講演会を開催したり、グループホームケアについて相互に学ぶ機会を作っている。また地域の様々な情報を頂いたり、その都度旬の議題を取り上げ意見交換を行っている。他のグループホームの管理者からも意見をもらったりしてサービス向上につなげている	会議では施設の活動状況を詳細に記述した資料を配布しており、参加者からも積極的に意見が出てその意見を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	重要事項に関しては施設長や管理者が主となり情報交換を行っている。また日常的に電話やメールで情報交換を行っている。またメール内容は職員に回覧することもある。運営推進会議でも市担当者からお話を伺ったり、取り組みに関してアドバイスを頂いており、実情を理解してもらうようにしている。	市からはメールで研修案内や食中毒警報等の連絡が有り、施設側からも人事異動や事故報告等を行いコミュニケーションを図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアに取り組み、根付いている。防犯上の夜間の玄関を施錠する以外は玄関を開ける事はない。利用者、来訪者ともに自由に出入りできる環境を作り、活動の面でもやりたいことを自由に行なえる環境を作っている。その他の身体拘束もすることなく取り組んでいる。また掲示にて意識付けをしている。	身体拘束は行なわないことは全ての職員及びご家族にも周知しており、研修も毎年実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	日頃より利用者の様子に目を配りながら虐待防止の意識を持ち丁寧な対応を心がけている。職員同士で接し方、声かけの仕方などをアドバイスし合いながら、利用者の尊厳を守る努力と、意識の向上を図り防止に努めている。研修の機会があれば参加し情報共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている利用者もおり、身近な制度として関心を持ち、研修会に参加したり、後見人、保佐人の方達とも連携を取りながら学ぶ機会もある。利用者の状況に合わせて必要な場合は、法人内のソーシャルワーカーと相談、協力して利用を促進できる環境を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望時には実際見学に来て頂いたり、説明を行っている。契約時には重要事項説明書や契約書を十分に説明し、不安や疑問、意向を尋ねながら理解、納得を得るように努めている。今年度の介護報酬改定で若干の料金改定時にも口頭と文書での説明を行い、納得理解を図った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご家族、利用者が意見が言い易い関係作りに努め、来訪時や家族会、月のお便りで意見、要望を聞きだす努力をしている。運営推進会議では意見を引き出しながら出席されている外部者へも聞いて頂き意見を貰っている。また意見箱の設置や、他部門にも苦情相談窓口を設けていたり、外部評価の家族アンケートも運営に反映する良い機会となっている。	ご家族の来訪時には利用者の担当以外の職員でもご家族に現在の状況を説明できる体制になっており、ご家族との会話の中でそれとなく意見を聞いて運営に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図りながら、個々の考えや意見を聞く機会や環境を作っている。提案を連絡ノートやミーティング、スタッフ会議で話し合えるようにしており、皆で意見を出し合いながら実践したり、年に1度個人面談があり意見や提案を聞き反映できるようにしている。	年1回の個人面談や毎月のスタッフ会議、毎日のミーティング、連絡ノート等あらゆる手段や機会で見職員の意見を取り入れて運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃よりコミュニケーションを密にし個々の現状把握に努め、各自が意欲を持って働けるように職場環境や条件の整備に取り組んでいる。勤務も体調や家庭環境にも配慮しながら負担がかかり過ぎないように配慮したり、経験等も考慮し、役割を配分しながら働きやすい就業環境となるよう心がけている。職員同士が話し合い、責任を感じ、信頼し協力できる環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や力量を把握し、法人で個人向上意欲評価制度があり、年度初めには目標設定をし自己啓発の機会を作っている。階層育成の基準がありそれぞれの職務レベルによって役割を担っていけるような体制があり、レベルに応じた内外の研修参加を勧めている。研修後は伝達講習をしたり勉強会を開催したり、職員間で互いに提案しながら日々の実践力の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の相互研修に参加し、他のグループホームの取り組みやケアサービスを学び自施設でのケアの質の向上に努めている。法人内のグループホームとも日常的に交流の機会や勉強会、意見交換など連携をとりケアを実践している。管理者ネットワークの会や、他ホームの運営推進会議に出席し様々な情報交換の中で学びや質の向上の機会となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には関りのある方達から情報を得たり、本人への訪問調査、家族から情報収集、施設見学をしてもらったりして入居への準備を進め、環境が変わることに配慮し、本人が困っていること、不安なこと、要望を聞き取り、ケアに活かしながら信頼関係を築くよう努めている。担当者をベースに必要なケアについて本人と相談しながら安心を確保できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には施設見学や意向確認を行い、困っていること、不安に思うこと、要望をしっかりと把握し、意向に添うケアが提供できるように努めている。入居当初に限らず来訪時や電話、お便りなどで、どの職員でも状況を把握し、ご本人の様子を伝えることができるよう心がけたり、介護計画の説明などを通じ、ご家族にも理解して頂けるよう関係作りにも努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前の面談で得た情報や本人や家族の意向をもとに担当者を含めて話し合い、必要なケアを見極めて介護計画を作成し、説明することでケアを導入している。生活の様子を注意深く観察しながら、状態に変化があればサービスの補足を検討している。職員間、介護支援専門員、医師、看護師、ソーシャルワーカー等と連携し、他のサービス利用も検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、したい事は一緒に楽しむことを大切に、見守りながら必要以上に手を出し過ぎず、自信と安心につなげるようにしている。共に生活する意識を持ちながら、信頼関係を築き、利用者より多様な希望を引き出している。希望の中で可能なことは、実現できるよう取り組む努力をしている。お互いが教えあったり励ましあったり、利用者と同じ目線で生活するよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時には職員は本人にとって家族以上の存在になれないことを説明しながら支えて頂くようお願いをしている。日頃のコミュニケーションを大切にしながら、本人にとって大切なことを一緒に考えている。離れて暮らしていたり、本人との関係性や気持ちも考慮しながら、情報を共有し、職員では補えない部分を、できる範囲で協力していただける関係作りにも努めている。対応が難しい家族にも働きかけはその都度行い、ご理解いただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人・友人・近所の方などの来訪が比較的多く、ゆっくりとくつろいで過ごせるようにしている。ご家族の外泊、外泊の支援も多い。また信仰ある方は知人の協力も得て集会へ行き、馴染みの人達と会う機会も継続できている。一人ひとりの生活歴や情報をもとに美容院やお店など馴染みの場所に出かけたり、手紙や電話で連絡を取り合ったり、今までの関係性が維持できるよう支援に努めている。	墓参りやなじみの喫茶店、神社、図書館等への支援をしており、利用者の友人知人の来訪時には丁寧に接して今後も来やすい雰囲気を作って再訪につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の人間関係を把握し、ともに生活している仲間と感じられる雰囲気作りをしている。皆で過ごす時間、気の合う者同士で交流する時間、少人数で過ごす時間を大切にしている。状況により関係性を見ながら不快なく過ごせるよう職員が配慮して環境設定を行ったり、一人ひとりに配慮し、一緒に楽しく支えあえるよう、和を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退居に至った方には、時に利用者連れて見舞いに行ったり、ご家族とも近況についてお話ししたりしている。亡くなられた後にも絵画の遺作展に招待され作品を寄贈していただけたら、ご家族もグループホームに立ち寄って話や相談などされる事もあり、これまでの関係性を大切に出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で信頼関係を築き、一人ひとりの多様な希望を聞き出す努力をしている。可能な限り実現できるよう努めることで思いや希望が引き出せるように取り組んでいる。希望の表出が出来ない方へも、ご家族より情報を頂いたり、ご本人の以前の生活、望んでおられた生活に少しでも近づけるよう、日頃の関わりの中で様子をよく観察し、表情や反応の良いものを支援できるよう努めている。	利用者が希望を言い出しやすい雰囲気になっており、居酒屋での飲酒や外食等利用者の意向をタイムリーに最大限叶えることを重要視した対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や馴染みの暮らし方等を日頃からご本人、家族に聞き出し、その情報がその人らしく主体性を引き出せるヒントであると認識し活かしている。馴染みの生活が今でも行えるよう、会話や関わりの中で知れた情報をアセスメントに追加しながら細かな点も把握し馴染みの暮らし、環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムや心身の状態を日々の様子から観察し記録に残しながら、職員間で情報を共有し、利用者の得意な事、やりたい事を把握し、支援に繋げている。個々のペースに合わせた生活の中で、自主的に動かれる事が少ない方への働きかけを心掛けながら能力発揮の場を提供したり、自分で出来ていることを感じられるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中での情報を職員で共有しミーティングや会議などでご本人やご家族の意向や主治医その他の関係者の意見も踏まえ、より具体的なケアになるよう検討している。モニタリングを毎月行いながら、計画が現状に即したものとなっているのか検討し、3ヶ月に1回できることを伸ばせるような、本人にとって前向きな支援を心がけた介護計画となるよう作成している。	本人やご家族の意向を取り入れた詳細なプランになっており、サービスの実施状況及び本人の満足度の視点からのモニタリング、評価になっており、次期の計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一日の活動、介護サービス提供に関するもの、日々の様子(言動、要望、過ごし方、医療的事項など)を記入したり、介護計画に必要な情報としても介護支援経過記録へ記入し課題がどこにあるか把握して介護計画の見直しへ繋げている。日常的な変化や対応も記入し職員の気づきを共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や意向の変化に柔軟に対応し、継続したサービス利用に繋げていける様、施設申し込み等の相談支援をしたり、筋力維持等の身体支援をリハビリに相談しアドバイスをもらったり、食事に関する相談は栄養士に意見を求め活かしている。家族に代わり受診の付き添い支援や帰宅支援をしたり、グループホーム間でのクラブ活動など柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアや地域の運動会、公民館祭等での交流の機会がある。また個々の能力に応じタクシーやバスを利用しての外出を業者にも理解してもらったり、地域の民生委員さんによるかき餅作り、幼稚園児と交流、図書館利用等、本人の暮らしの安らぎに繋がっている。近隣に出かける機会を多く持ち、外出中に声を掛けてもらったり地域での暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人やご家族に意向を確認し、かかりつけ医の決定を行っている。自施設にも協力医療機関があり、いつでも連絡、相談できたり細かな情報提供を行っている。必要に応じ外部の専門医療機関へも受診がスムーズにいける様、主治医より紹介状を頂いたり適切な医療を受けられるよう支援している。	ご家族や本人の希望により、以前からのかかりつけ医になっており、変更する場合は本人やご家族と話し合っ医師の紹介状を貰って対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接病院にグループホーム担当看護師がいて、日頃より情報伝達し利用者の状態を把握されており、いつでも相談、指示を仰ぎやすい体制となっており、適切な治療や看護を受けやすい。今年度より看護師が配属となり看護師もおり日常的な状態の情報共有を行い状況に応じた判断や治療の援助も出来るような支援が可能となった		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時の入院は、ご本人やご家族の希望に添えるようにしているが、急な場合でも連携が図れるよう介護連絡表を作成している。日頃より法人内の医療関係者との円滑な関係作りに努め、入院時には経過を面会にて確認したりソーシャルワーカーや病棟担当者等と情報交換をし早期退院に向け治療計画を立てて頂いている。また生活継続が可能かどうかの判断も情報交換、相談をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人全体で利用者の重度化や終末期をその人に合った環境で支援する方針を、入居の段階でご家族に説明しており、理解を頂いている。状態の変化や重度化していく中でも現状をご家族と話す機会を多く持つことで対応の確認を図っている。また主治医やソーシャルワーカーとも連携をとりながら、退居後の支援のあり方について、他施設の紹介や入院など円滑に進めれるよう共に取り組んでいる。	重度化した場合の対応は重要事項説明書に「適切な療養環境で治療が継続的に行なわれるように対応します」と明記されており、ご家族にも説明されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成しており、各入居者については事前に考え得る急変状態を主治医に確認をとり、状態の変化に対応できるよう心がけている。救急蘇生法の研修や訓練に順に各職員が参加できるようにし、伝達して実践に役立てれるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練に参加し避難方法を学んでいる。隣接の法人病院と一緒に災害対策マニュアルを見直しており、多様な災害時への対策を考えている。緊急時の連絡網もあり利用者の避難が行えるよう体制を作り、運営推進会議などでも地域の方や家族に協力いただけるよう情報交換している。 火災報知機、スプリンクラーや耐震設備、通報装置は充実しており利用者の安心ともなっている。	法人と合同で災害対策への話し合いを行っており、災害マニュアルの見直しを行い、避難場所のご家族への周知もできている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重し無理強いではなく自己決定しやすい様言葉かけをしたり、時間を置いたり、行動を促すにも心地よく感じられる対応を心がけている。人格やプライバシーを考慮し、排泄時の声掛けや、介助の仕方など個々に合わせたさりげない対応や、トイレや風呂場にはカーテンを設置したり、面会でも他者の目が気にならない様、居室にて過ごせる様プライバシーの確保に努めている。	事務所内の掲示板に利用者それぞれの予定も書いていたが、利用者が事務所に入って来て見る事が有ったので利用者の予定は明記しないようにしたりしてプライバシーの尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の考えではなく、待つ、見守る姿勢を心掛け利用者本人が決断したり、意思を表しやすい環境づくりをし、信頼関係を深めながら毎日の支援を継続している。日頃より表情などを観察しながら本人の思いを読み取り、自ら思いや希望を表出、行動できない方でもさりげない働きかけで行動を引き出せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先することなく一日のスケジュールは利用者の希望を聞きながら決めたり、本人のペースに合わせた生活を支援している。個々で役割があったり、日課があったり日中の過ごし方を決めて行動される方もおり、見守りながら、希望や必要に応じて様々な働きかけを行っている。ペース作りが難しい方には活動と休息のバランスを考えながら寄り添い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際にはおしゃれ着に更衣したり、化粧をしたり本人なりのこだわりや好みを大切にその人らしいおしゃれができるよう支援している。散髪もご家族が行きつけの理美容院に連れて行ったり、難しい場合はスタッフが配慮して支援している。 毎日の服を選ぶのも自己決定ができるよう支援したり衣類も必要に応じて一緒に購入しに出かけ楽しみの時間を共有できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を取り入れながら献立を作成し、旬のものを使用したり頂き物で3食以外でも調理をしたり、作って食べる楽しさを支援している。食材購入も一緒に出かけ、一人ひとりの能力に合わせ、準備では切ったり、炒めたり、味付け、盛り付け、配膳など分担したり、片付けも一緒に行いながらそれぞれの力を発揮できるよう取り組んでいる。外食も皆や個別に支援し昼間だけでなく夜の外食にも取り組み楽しさを提供している。	利用者と相談しながら買物に行き、食事作りや配膳等それぞれの役割を持ち、外食も希望に合わせた行先を選定して、楽しい食事になるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の病状に合わせた食事内容・食事量の配慮ができるよう栄養士と相談しながら食事提供している。日々の食事量、水分量などを記録し水分摂取がしにくい方には、お茶ゼリーやスポーツ飲料、好みの飲み物で対応したり提供時間を工夫しながら水分量が確保できるようにしている。嚥下の状態も見ながらとろみをつけたりして安全に食事量が確保できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の能力に応じて促し、見守り、助言、介助を行い、口腔内の清潔を保てるよう支援している。定期的な歯科受診を受けている方もいたり、歯科医から助言をもらったり、義歯、歯ブラシ、コップなどの洗浄、消毒を定期的に行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりがトイレを使用しながら能力維持を図ったり、排泄パターンを把握し、適切な誘導や個々にあったパット、布パンツへの移行検討したり自立に向けての対応も心がけている。失禁の軽減や、排泄への自信に繋げ清潔保持や快適に過ごせるよう配慮したり、さり気ない声掛けや自尊心を大切にしながら自立にむけた支援を行っている	失禁で利用者が恥かしい思いをしなくても済む様に利用者が夢中になりやすい行事等の前にトイレ誘導を行い、又時間を見て声かけをして自立を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の関りで便の状況を観察し、水分摂取や適度な運動を心がけ、食物繊維の多い野菜を多く食事に取り入れたり、できるだけ自然な形で排便となるよう配慮している。便秘による精神的な影響も考え、下剤の調整もあるが、状況にあった適切な量となるよう看護師や医師と相談している。ヨーグルトや豆乳などを試してみたり、お茶ゼリーや果物、好みの物で水分量を補ったりしながら便秘予防となるよう個々に応じて支援している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の体調や希望に応じられるよう、午前、午後いつでも入浴できるようにしている。回数に定めもない。入浴剤やゆず湯など季節を感じられたり、皮膚状態に合わせた洗剤を検討したり、個々に応じて入浴が快適なものと感じられるよう配慮している。拒否のある方にも声かけを工夫したり、タイミングを見ながらご本人がその気になれるよう働きかけ定期的な入浴が行えるよう配慮している。	朝一番の入浴を希望される利用者も有り、朝から夕方まで希望の時間に入浴できる体制を取って菖蒲湯等で季節感を演出して支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切にしながら、日中の活動性を高めることで、夜間の安眠につながるようにしている。個々の体力や体調に合わせて活動にメリハリを持たせ職員から休息を促したり、落ち着かない方には、寄り添い、話を傾聴しながら安心して休むことが出来るよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理と内服支援を行い医師の指示通りに内服できるよう支援している。個々の処方内容をいつでも確認できるようファイルし、重要事項や禁忌事項の把握に努めている。処方変更があれば全スタッフで情報共有し、様子の変化を観察している。生活の様子や状態に合わせて適切な薬の処方につながるよう主治医へ報告相談を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味、嗜好を把握し生活の中で楽しんで取り組みながら、役割意識や気分転換が図れるよう支援している。クラブ活動も楽しみとなったり、好みの新聞をとったり、散歩や家事活動、塗り絵や計算ドリルなどが日課となったり、嗜好品を購入するための外出も楽しみに繋がっている。利用者のやりたい事を普段から聞き出し、実行できるよう心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のように戸外に出かける機会がある。畑の作物を見に出かけたり、個別な外出や「夜の街でお酒が飲みたい」との希望を実現したり、日常的に買い物や図書館、個々の馴染みの場所や希望に応じ様々なところへ出かけている。 ご家族とも買い物や地域に外出したり外泊の支援も多い。家族会では普段行けないところ出かけたり、地域の行事に参加し協力していただけている。	お天気の良い日には必ず散歩や外出をしており、行先によってはおしゃれ着に着替えたり、化粧やマニキュアをして出かけて、利用者の心が浮き立つような外出になるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意のもと、お小遣い程度の金銭を所持し、外出時などに自分の買い物や外食をしたりして楽しみながらお金を使えるよう支援している。使わなくても持っているだけでも安心に繋がっている方もおられたり、本人の能力や精神状態を考慮し、ご家族と相談しながらの支援につなげている。生活保護の方も希望で毎月「お小遣い」という形で小額のお金を持ってもらい自分のものを購入できる機会につなげている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が備え付けの公衆電話を使用したり、希望によって職員が連絡し本人と話をしてもらったりと柔軟に対応している。普段も本人が手紙を出し、家族からの返事もある。 正月には年賀状を出したりできるよう支援している。 家族や知人からの電話もよくかかってくるなど様々な人達とのやり取りを大切にしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を	季節に合わせた飾りつけや花、明るいホーム内の雰囲気作りを心がけている。キッチンでの食事作りの様子が伺えたり、においがしたり、人の気配が感じられたりと、安心できるよう心がけている。リビングでは新聞を読んだり、音楽を流したり、趣味活動を行ったり、図書、アルバムなどがあつたり個々の好みに応じた心地よい生活空間となるよう配慮している。混乱を招かないよう適度に張り紙をしたり鏡の工夫をしたり、明るさや室温管理なども配慮している。	洗面所の鏡が大きく、混乱を招く場合も有ったので鏡の面積を小さくして、カーテンをかけて対応して快適な空間になるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではテレビを見たり、会話をして過ごせたり、同じ活動をしてコミュニケーションを取ったりしている。談話コーナーでは気の合う者が少人数で過ごす様子があり、1人でテレビを見る事も出来ている。 廊下の途中にもソファやテーブルがあつて落ち着く場所となり、読書したりキーボードを弾かれ歌を歌っているなど、それぞれの居場所がある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活にあつた環境づくりを心がけ、ご家族の協力により使い慣れた机、化粧箱、仏壇、家族写真、本、趣味の私物、花など各々の趣味や習慣に合わせたものが持ち込まれ、過ごしやすい空間となっている。自分の時間が過ごせ、生活スタイルに添った居室となるよう家族と相談し足りないものを持ってきてもらったり本人と相談して買い足したりしながら、安心して過ごせる室内となるよう工夫している。	居室には利用者それぞれの使い慣れた時計や仏壇、文庫本、元の勤務先のカレンダー等を持ち込み、それぞれが安らげる空間作りになっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態や能力に合わせて分かりやすく表示をしている。台所や居室のタンスなど収納場所が分かるようにするなどさり気ない目印や動きが分かる工夫をしている。起き上がりしやすい手すりを設置したり、廊下にも手すりがある。フロアマットにテープをはり転倒防止に努めたり、安全に生活が送れるよう動線を考えて家具の配置を考えたりしている。			